

当院における栄養サポートチームの現況 ～NST専従者としての役割～

藤田保健衛生大学七栗記念病院 NST¹⁾

同 外科・緩和医療学講座²⁾

同 七栗記念病院 歯科³⁾

松本真奈美¹⁾、東口高志^{1, 2)}、伊藤彰博^{1, 2)}、大原寛之^{1, 2)}、伊東知美¹⁾、長末麻衣子¹⁾、井谷功典¹⁾、金森大輔^{1, 3)}、堀内薫¹⁾

【はじめに】 当院では2004年4月より全科型NSTが稼働し、多職種から成るサテライトチームが活動している。今回NST介入効果とNST専従者の役割について報告する。

【方法】 2016年4～9月の当院入院患者557名中、一般病棟で専従者が関与し、複数回介入した96名を対象とし、1)背景因子、2)エネルギー充足率、3)NST介入による総合評価改善度を調査した。専従者は、専門療法士取得者が毎年交代で務め、迅速に患者基本情報を獲得、加えて①チームを統括、②病棟スタッフに対する教育、啓発、③対象患者・家族への説明を行っている。

【結果】 1)年齢：75±11歳、男：女=49：47、疾患（例）：がん64、神経疾患11、脳血管障害10、その他11、4)介入前66.1±37.5%、介入後84.4±35.8%($p<0.001$)、5)総合評価は、改善14%、不変72%、増悪14%。がん患者（多くは再発・終末期がん）においても不変が多く、感染・免疫力改善も32%と、栄養状態が維持されていた。

【結語】 NST専門療法士取得者を専従者とし毎年交代することは、NSTの強化、向上に繋がると考えられた。専従者を中心に、迅速なチーム介入を行うことが、がん終末期患者であっても栄養状態の維持に繋がることが改めて示された。